

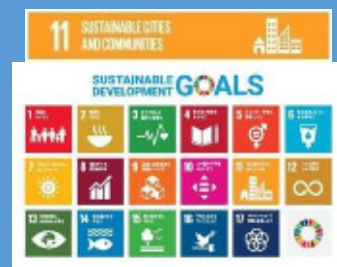
# 下呂市公園

## 整備計画（子ども期）

～第1ステージ 遊具整備編～

令和5年3月

下呂市



## 目次

第1章 はじめに.....	1
1-1背景 .....	1
1-2公園整備に関するプロジェクトチーム.....	1
1-3プロジェクトチームの方針案(提言).....	2
1-4公園整備に関するプロジェクトチーム.....	2
公園の役割 .....	2
整備計画 .....	2
エリアマネジメント.....	2
整備事業と財源 .....	3
第2章 下呂市の現状.....	8
2-1人口.....	8
2-2公園 .....	9
第3章 公園緑地整備検討協議会 .....	9
3-1公園整備に向けて .....	9
3-2公園整備の方針.....	10
3-3保護者へのアンケート.....	11
3-4視察 .....	12
3-5拠点公園の設定.....	13
3-6整備時期(遊具のみ) .....	17
第4章 遊具の選定.....	17
4-1遊具の選定について .....	17
4-2遊具の仕様について.....	17
第5章 計画の引き継ぎ.....	18
4-1遊具の選定について .....	18
令和4年度 公園緑地整備検討協議会委員(第1ステージ 子育て期).....	19

# 第1章 はじめに

## 1-1 背景

公園・緑地は、地域に活力とゆとりを与える潤いの場であるとともに、災害時の避難場所など、多様な面において生活を支える重要な施設です。下呂市の公園は、市町村合併前に整備された施設が殆どで、当時の社会状況やニーズにより様々な形で整備されました。しかしながら公園整備とその在り方については、設置の目的や活用の多様性についての再検討や市役所内の横断的な取り組みなども行われることなく、施設の維持と補修のみがおこなわれてきたのが実情です。また、古くなった遊具や設備は安全性という視点から使用禁止または、撤去となり公園整備後の機能は年々低下しています。こうした中で、市民からの公園整備に関する期待は非常に高く、とりわけ子育て世代の潜在ニーズは非常に高いものとなっており、少子化や超高齢化社会を迎えた地域が広範囲に点在する本市において、現状の公共空間である公園の整備と活用について検討していくことは、SDGsの目標 11「住み続けられるまちづくりを」にも呼応する、急務な取り組みとなっています。

## 1-2 公園整備に関するプロジェクトチーム

下呂市では、公園に関するニーズに対応するため令和3年8月に庁内プロジェクトチームを立ち上げました。プロジェクトチームでは、まず遊具の有無を問わず、小規模な公園も含め市内に点在している公園の調査を実施しました。調査の結果それぞれの公園は、整備が行き届いていない事例も散見されましたが、概ね、1年に1回以上は、何らかの管理が行われていました。すべての公園に歩いて行くことはできませんが、車で10分以内の範囲には公園(公園的な役割の施設)があることが分かりました。

一方で、調査対象の公園の大部分が満足な環境下にあるとは言えない状況であり、遊具、トイレ、水場、休憩スペースの整備状況は不十分で、これは、市が管理する大きな公園についても大部分がそのような状況でした。

遊具については、大規模なものは皆無で、手入れはされているものの老朽化は著しく、更新や新設された形跡はほとんどない建設当時のままとなっています。自治会で整備された小さな公園は、地域の子どもの減少とともにその役目を終えたものもあります。なお、令和3年度に竹原地区で地域によって新設された白草公園は特異なケースと言える公園のひとつです。

当然こうした環境では、市内の子育て世代は、身近な公共空間を避け、遊び場を求め市外の大規模公園に行くこととなり、市内の公園は、公共の憩いの空間としての役割や世代間の交流の場としての役割を果たすことが出来なくなっています。以上のことから、今後、市として公園を整備するための「公園の役割」や「整備の計画」、「エリアマネジメント」、「整備事業と財源」についてプロジェクトとしての整備方針(案)を定め、持続可能な地域のための、公共空間としての公園整備について提言を行うこととしました。

## 1-3プロジェクトチームの方針案(提言)

### <公園の役割>

公園の役割については、従来の子育て支援の場であるとともに、以下のような効果が期待される。

#### 1. 子育て及び教育『子どもの健全な育成の場を提供』

- ・子育て支援の充実 運動や遊びを通した子どもの心身の育成と創造力の醸成

#### 2. コミュニティの形成『地域のコミュニティ活動の場を提供』

- ・イベントによる交流機会の充実
- ・世代間、地域間交流の場

#### 3. 心身の健康増進『健康及びレクリエーション空間を提供』

- ・健康的なライフスタイルの提供(ウォーキングや芝生空間の活用)
- ・レクリエーション空間の提供(花見やアウトドアライフ)

#### 4. 景観形成『季節感を与える景観や街並みをつくる』

- ・地域の景観の保全や活用
- ・下呂市のシンボル

#### 5. 観光連携『地域の賑わいや活性化』

- ・観光拠点としての集客効果やイベント開催による消費の拡大、観光客との交流
- ・自然を生かし自然に親しむ公園 足湯のある公園 カエルをテーマにした公園
- ・どんぐりのある公園

#### 6. 防災『防災拠点としての活用』

- ・災害(震災)発生時の避難や備蓄拠点

### <整備計画>

公共空間としての多種多様な役割が期待され、子どもや高齢者をはじめ誰もが安全、安心で快適に利用できる公園整備を目指し、以下のとおり公園整備をすすめる。

#### 1. 拠点公園の選定

エリア、人口、生活圏等を考慮し、以下の公園を拠点公園として選定する。

##### ①飛騨川公園(萩原町上呂)

【整備内容】

- ・大型遊具の設置 ・健康器具(遊具)の設置 ・駐車場の整備、拡幅
- ・グラウンド・ゴルフ場側トイレの増設

## ②ふれあいパーク(金山町金山)

### 【整備内容】

- ・既存プールの撤去 ・トイレ棟の新設 ・遊具の設置(子供用や健康遊具)
- ・イベント開催を想定した電源や水道の設置 ・芝生広場の整備

## 2. 公園施設台帳の整備と公園管理の一元化

これまで有利な補助事業等を活用し、公園整備を進めてきた結果、公園整備後の維持管理は設置した部署が所管し、その数は複数に渡る。また、市の合併や合併後の組織改編、年数の経過とともに設置目的は薄れ、その運用方法についても深く議論されることはなかった。そこで、現存及び新設する公設公園については公園施設台帳による一元管理を行うとともに、今後の管理、運営は主管課を定め(既設・新設は問わない)、その運用方法を明確に定めるものとする。

## 3. 長寿命化計画の策定

公園施設の効率的な修繕や更新を行うため、優先的に安全性を確保すべき施設の老朽化対策と、計画的な維持管理、修繕・更新費用の算出及びコストの平準化を定めた、長寿命化計画を策定する。尚、とりわけ遊具の点検については法令の定めがないため、メーカーに依存することが多いが、市として調査・研究の上、独自の基準を策定するなどの措置を講じる必要がある。また、必要な予算措置については言うまでもない。

## 4. 維持管理

条例で定めている公園に関して、先にも触れた通り、台帳などで管理を行い定期的な点検や清掃を行う。また、市民の公園に対するニーズの変化からの確かつ柔軟に対応していくためにも、「人(利用者、ボランティア、管理組織等)」「物(植物、施設等)」「金(予算、財源等)」など公園に関わる要素を効果的に利用し計画から整備、管理運営、財政までを含めて PDCA サイクルでマネジメントを行う。公園整備から、街づくり、市民の交流の場へと繋がりが期待される。

また、上記以外の公園のほとんどは、1ha 以下で遊具がなく、地域で管理されているものが多い。このような公園に関しては、維持管理を強いるのではなく、地域で管理しやすいよう、管理の指標や手立てを示し、地域(街)づくりと併せて、それぞれの地域の特性とニーズに合わせた公園の利活用・維持管理がされるようサポートしていく。

※維持管理の実施に当たっての視点と内容

- ・緊急性、必要性、運営管理方針との整合性などに着目して優先順位を付け、予算の増減に柔軟に対応する。
- ・公園内の利用状況は季節や場所によって大きく異なるため、利用の特性にあわせて機能上や、景観上の目標、水準を設定する。

## 5. 計画期間

この整備方針の計画期間は令和 13 年までの 10 年間とし、公園の再整備に計画的、集中的に取り組むこととする。また、以下の3つの個別計画に基づき、中・長期的計画のもと、検証と評価(効果の振り返り)を行い、計画を見直すことで放置された公園を生まないサイクルを構築していく。

- ・整備事業計画(再整備含む)
- ・維持管理計画
- ・長寿命化計画

## 6. 情報発信

公園情報アプリ『PARKFUL』(日本全国 10 万箇所の公園をデータベース化しマップ等で閲覧できる)などのICTを積極的に活用し、情報発信に努めるとともに、ユーザーが相互に公園についての情報を共有(発信を含む)できる仕組みを構築する。

- ・公園施設台帳

公園の適正な維持管理のため、公園施設台帳を整備する。

### 地域コミュニティ公園のエリアマネジメント

地域コミュニティ公園は、市民にとって身近なオープンスペースであり、その空間と機能は地域に多くの便益をもたらすかけがえのない存在である。また、長年「地域の庭」としての公園もあり、利活用・整備に当たっては、地域の意向と係りが重要となる。今後、より一層、地域コミュニティ公園が利活用され、地域のニーズに即した公園となるためには、住民参画の場としてのワークショップや、地域運営施設を維持管理していく仕組み作りをサポートする必要がある。

## <エリアマネジメント>

少子高齢化、人口減少が進行する中、地域の実情に合わせて、地域コミュニティ公園の整備をサポートすることが、まちづくり(エリアマネジメント)との連携つながっていく。

### 1. マネジメントの仕組みの構築

- ・自治会やボランティアなど、さまざまな組織や団体が参画しやすい環境づくり(これまでの実績を踏まえ、若者など多様な世代や各種団体などが参画しやすい環境づくり)
- ・市民と行政をつなぐ人材の活用(ファシリテーター等の中間支援技術者など、各公園に応じた人材の活用を推進)

### 2. マネジメントのルールづくり

- ・公園のローカルルールの検討(公園ごとに使い方や決まり事のローカルルールを定めることにより地域の現状やニーズに対応)
- ・エリアマネジメントへの展開(公園を含めた地域全体のマネジメントを考慮し、環境や街並みの景観向上、資産価値の形成、安心・安全な地域づくり等、まちづくり効果を高める取り組みを展開)

### 3. 民間活力導入の推進

- ・民間事業者が、公園内でカフェやレストランなど収益事業を実施することによる公園利用者へのサービス向上、自動販売機の設置やマルシェの開催による収益のから公園づくりへの還元
- ・収益事業以外へのネーミングライツ、広告、寄付、PFI、エリアマネジメント等の手法を検討

## <整備事業と財源>

◆公園整備に必要な財源や地域の資金調達の手法について記載する。拠点公園。下呂市が行う主として市内外からの利用者のための公園が対象

### 1.1 過疎対策事業(地方債)

#### ○事業概要

過疎地域自立促進特別措置法第6条第1項の規定による「下呂市過疎地域持続的発展計画」に基づいて実施する事業

<財政措置 充当率原則 100% 交付税措置率 70%>

### 1.2 公共施設等適正管理推進事業(地方債)

#### ○事業概要

公共施設等の老朽化が課題となっている中で、財政負担の軽減・平準化に向けた集約化・複合化と合わせて長寿命化等の推進が必要となっている。

#### ○事業要件

公共施設等総合管理計画に基づいて行われる次の地方単独事業

・長寿命化事業

個別施設計画に位置付けられた公共の建築物並びに都市公園施設に係る長寿命化事業

・ユニバーサルデザイン化事業

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づく公共施設等のバリアフリー改修事業

<財政措置 充当率 90% 交付税措置率 50%>

### 1.3 コミュニティ助成事業

#### ○事業概要

自治総合センターによる宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動に必要な整備、安全な地域づくりと共生のまちづくり等への助成を行い、地域コミュニティ活動の充実・強化を図る。

#### ○助成金

・一般コミュニティ助成:100万円~250万円

・地域づくり助成事業(共生の地域づくり):1,000万円まで

### 1.4 ふるさと応援基金

○「ありがとうみんなが幸せ」あったかふるさと応援事業

○「未来へつなげ下呂のめぐみ」元気なふるさと応援事業

◆地域コミュニティ公園 自治会等が行う主として地域のための公園

### 1.1 下呂市コミュニティ施設等整備事業補助金

#### ○事業概要

地域コミュニティ活動を促進し、もって地域社会の健全な発展を図る。

#### ○事業要件

自治会が実施する体育施設及び子供遊園施設の整備に伴う補助

○補助率

体育施設(グラウンド):1/2(限度額 100 万円)

子供遊園施設:1/2(限度額 50 万円)

※自治総合センターのコミュニティ助成事業を財源

## 1.2 地域振興事業

○重機借上げ、原材料支給制度の活用

○地域づくり公園補助事業の創設

## 1.3 ふるさと応援基金

○「ありがとうみんなが幸せ」あったかふるさと応援事業

○「未来へつなげ下呂のめぐみ」元気なふるさと応援事業

## クラウドファンディング

クラウドファンディングとは、「群衆(クラウド)」と「資金調達(ファンディング)」を組み合わせた造語で、「インターネットを介して不特定多数の人々から少額ずつ資金を調達する」ことを指している。インターネットの普及に伴い 2000 年代の米国で始まった。日本で初めてクラウドファンディングサービスが提供されたのは 2011 年。この年は東日本大震災の年だったこともあり、新たな資金調達の手段としてだけでなく、寄付をする際の新たなチャネルとして急速に浸透した。

### 1.1 購入型クラウドファンディング

起案されたプロジェクトに対して支援者がお金を支援し、支援者はそのリターンとしてモノやサービスを得る仕組みのクラウドファンディング。

○All or Nothing 型

募集期間内に目標金額を達成した場合のみプロジェクトが成立する。目標金額が集まってはじめて実行可能となるプロジェクトの場合は、こちらを選択することを推奨する。

○All In 型

目標金額に達していなくても、一人でも支援者が出ればプロジェクトの成立が認められる。ただし、掲載時にプロジェクトの実施を確約する必要があるため、内容によって利用できない場合があります。

### 1.2 寄付型クラウドファンディング

起案されたプロジェクトに対して支援者がお金を寄付をする仕組みのクラウドファンディング。リアルな場でおこなう寄付と同様で、商品やサービスなどのリターンは基本的に発生しない。プロジェクトによっては、お礼として手紙や写真を受け取ることができる。被災地の支援など社会貢献性の強いプロジェクトが多いことが特徴。

○参考プロジェクト

公園つくるんデス！～日本一ちっちゃな村の小学生と造園屋さんの挑戦～ 富山県舟橋村



### 1.3 ふるさと納税型クラウドファンディング

自治体が解決したい課題を具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した人からふるさと納税によって寄付を募る仕組みのクラウドファンディング。プロジェクトを選び、リターンを選ぶという流れは、通常のクラウドファンディングと同様だが、ふるさと納税の仕組みを使うことで、寄付金の控除を受けられるのが特徴。各種ふるさと納税ポータルサイト上で、クラウドファンディングの募集や支援(納税)が行える。

## 第2章 下呂市の現状

### 2-1 人口

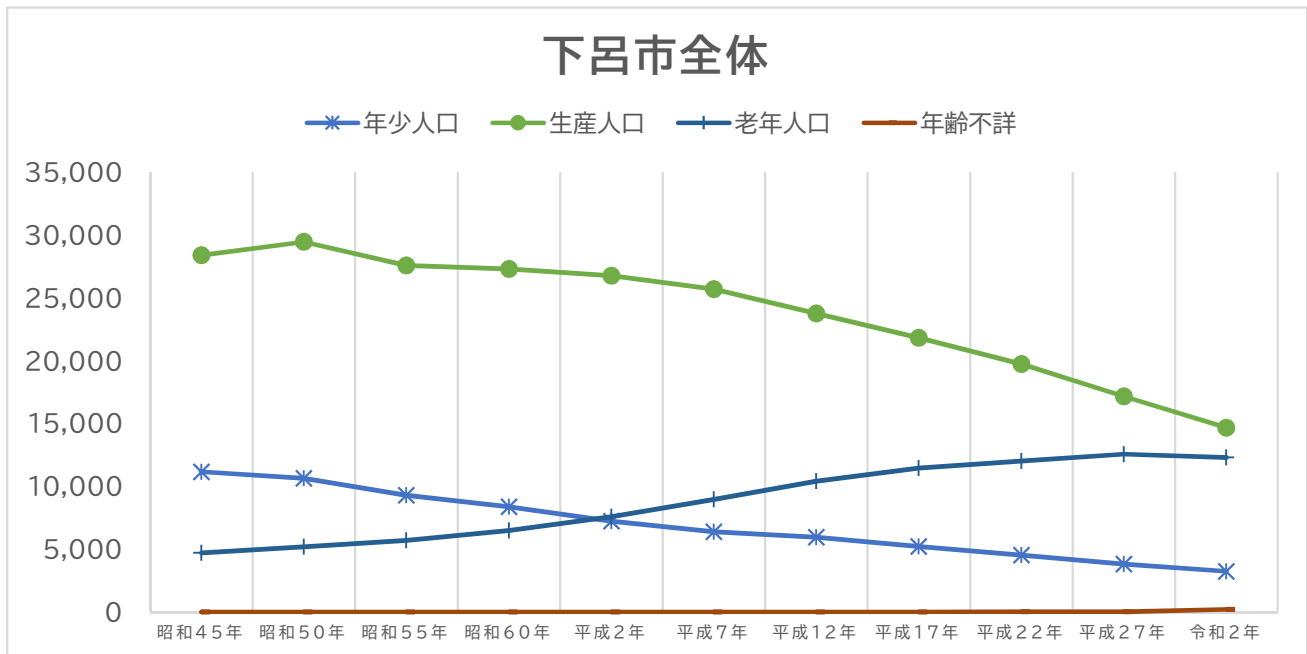
下呂市の人口は、昭和45年から一貫して減少傾向が続いており、令和2年で30,428人という状況です。年齢別人口の状況は、年少人口、生産年齢人口が減少、老年人口の増加が進行している状況です。

表-2

年次	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総数	44,254	45,293	42,581	42,147	41,576	41,029	40,102	38,494	36,314	33,585	30,428
男	21,005	22,081	20,234	20,087	19,736	19,552	19,090	18,352	17,310	16,008	14,471
女	23,249	23,212	22,347	22,060	21,840	21,477	21,012	20,142	19,004	17,577	15,957
世帯数	11,270	11,771	11,849	11,890	12,291	12,743	12,778	12,797	12,496	12,140	11,686

年次	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
年少人口	11,162	10,654	9,289	8,364	7,242	6,390	5,955	5,213	4,524	3,830	3,246
生産人口	28,383	29,444	27,579	27,303	26,747	25,681	23,744	21,809	19,733	17,160	14,670
老年人口	4,709	5,192	5,713	6,480	7,587	8,953	10,403	11,469	12,028	12,560	12,298
年齢不詳	0	3	0	0	0	5	0	3	29	35	214

図-2



下呂市人口ビジョン※1による人口分析によると令和22年の総人口は20,834人と推計されます。その傾向のまま推移すると、令和42年まで推計すると、12,281人まで減少することが予測されています。

※1 下呂市人口ビジョンは、人口の現状分析を行い、今後目指すべき方向と人口の将来展望を提示することで、効果的な施策を企画立案するために、第2期「下呂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基礎情報として平成28年1月に策定されたものです。

## 2-2 公園

下呂市の条例で位置づけされた公園は次の公園です

下呂市公園条例	飛騨川公園	下呂市萩原町上呂 2250 番地1
	桜谷公園	下呂市萩原町桜洞 1496 番地4
	上ヶ平公園	下呂市森 2309 番地3
下呂市都市公園条例	下呂つつじヶ丘公園	下呂市少ヶ野地内
	しらさぎ緑地公園	下呂市湯之島、小川、幸田地内
下呂市農村公園条例	四美やすらぎ公園	下呂市萩原町四美 866 番地
	大島農村公園	下呂市小坂町大島 987 番地7
	下呂東部農村公園	下呂市御厩野 1397 番地2
	清流文化の里(農村公園及び多目的広場)	下呂市馬瀬中切 1218 番地1
その他 ※公園的な要素が含まれた施設 など	金山リバーサイドスタジアム (ふれあいパーク)	下呂市金山町金山911 番地1
	下呂市下呂ふるさと歴史記念館(縄文公園)	下呂市森 1808 番地 37
	皇樹の杜	下呂市萩原町四美字深谷1405番地
	飛騨小坂ふれあいの森	下呂市小坂町湯屋273番地

この他に条例等で位置づけされていない広場や公園、学校やこども園の開放などで公園機能を代替している施設があります。

## 第3章 公園緑地整備検討協議会

### 3-1 公園整備に向けて

下呂市では、公園整備に向けて公園検討協議会を設置します。公園緑地整備検討協議会は、市内の公園の総合的な整備に関し必要な事項について協議するための協議会です。公園は、年齢や性別、用途も多目的であり、単に余暇を過ごすだけでなく子どもの遊び場やスポーツ、健康づくり、イベント会場として活用されています。

このように多世代、多目的かつ多用途に使用される公園整備について、課題の解決方法を早期に決定していくためには、焦点を絞った議論が必要です。そのため検討段階を3つのステージに分類し検討をおこないます。

## ◆公園緑地整備検討段階の分類

第1段階 子育て期	急速に少子化が進行する中でより早く拠点公園に関するニーズや意見を集約し早期に対応するため子育て世代を中心とする。
第2段階 バランス期	拠点公園の公共空間としての多様性を加味した形で様々な形で意見が聞けるようにする。
第3段階 地域期	地域公園を中心とした検討をするため地域を中心に話し合いが出来る仕組みにする。

## ◆公園の利用区分

本整備計画の中では、エリア、人口、生活圏等を考慮し公園の2つに区分して検討を行います。1つ目が「拠点公園」です。拠点公園は、広域的な公園で、将来に渡り多くの人が集まる市を代表する公園です。尚、「拠点公園」は、さらに2種類に区分として整理します。2つ目が「地域公園」です。「地域公園」は、比較的小規模な公園で利用者が学校区や自治会単位など利用者が限られた地域にとって身近な公園とします。

拠点公園		地域公園
中核公園	地区公園	
利用区分が下呂市全体の中核公園	利用区分が旧町村(地区)単位の公園	利用区分が学校区、自治会単位の公園・広場

## 3-2 公園整備の方針

公園整備に向けて公園緑地整備検討委員会としては、次の方針を進めます。

1. 人口減少社会を迎えるなかで、「**持続可能**」な公園整備を目指す。
2. 子育て世代のための**遊び場の充実**する。(遊具の整備)
3. **地域バランス**を確保する。
4. **地域公園の整備**の方向性を示す。(管理方法や制度の検討)

第1ステージでは、

- ・遊具の整備を行う拠点公園の決定(各地区またはエリアで1つ)
- ・整備する遊具の種類や規模等の決定

### 3-3 保護者へのアンケート

#### ◆アンケートの実施

拠点公園(地区公園含む)設定のため市内の子どもにお子さんを預けている保護者の方にアンケートを実施しました。アンケートの方法は次の通りです。

1. アンケートの方法: インターネット(LoGo フォーム)での回答
2. アンケート実施 : 市内6こども園(おさか、きた、みなみ(馬瀬)、わかば、たけはら、かなやま)
3. アンケート期間 : 各こども園毎に実施(10月~12月まで)

#### ※LoGo フォームとは

LoGo フォームは、市役所など自治体職員が、電子申請やアンケートなどのフォームを作成・集計を一元管理できる「デジタル化プラットフォーム」です。このサービスを活用してインターネット上にアンケートを公開し回答を頂きました。

#### ◆アンケートの結果(合計)

アンケート結果は下記のとおりとなりました。尚、かなやまこども園を除くこども園の保護者については、公園整備に関するプロジェクトチームの<整備計画>で拠点公園として提案されている「飛騨川公園」についてのアンケートを同時に実施しました。尚、拠点公園の選定に関するアンケートに関しては、拠点公園の設定イメージを伝えるため「**休日に子どもを連れてお出かけする公園**」ということで各こども園の役員に公園を設定していただきアンケートを実施しました。

#### アンケート回答数 322人

※園児数は参考とする。(同時入所があるため保護者数とは一致しない)

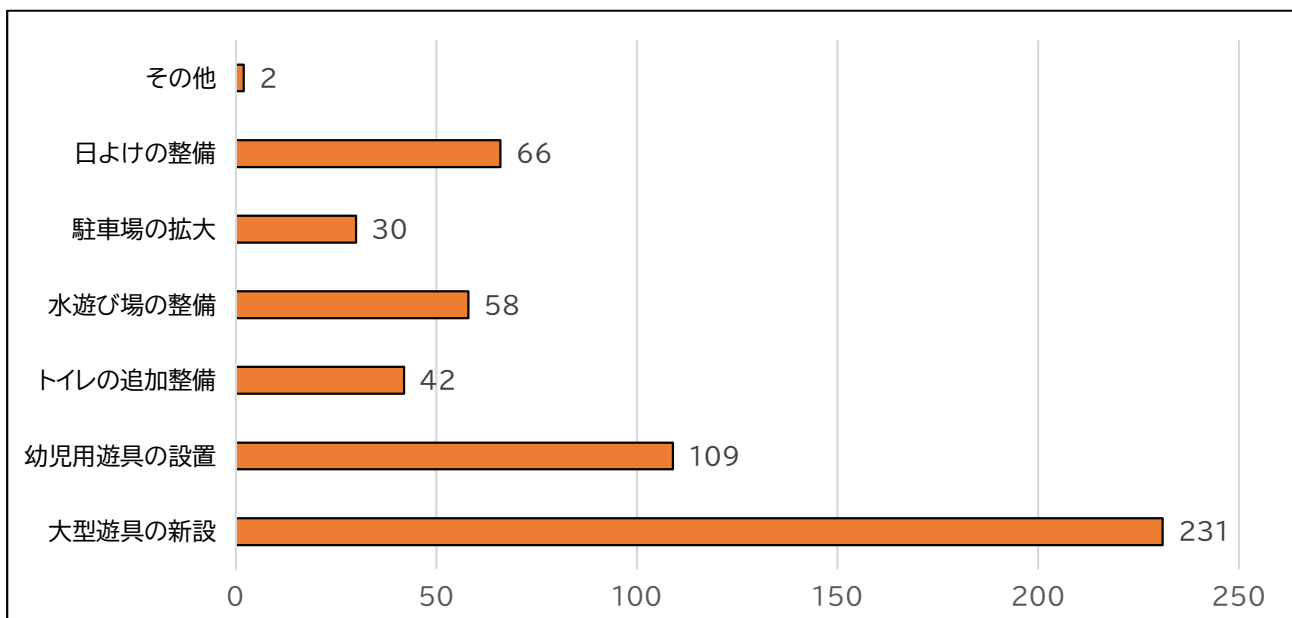
こども園名	回答数(人)	園児数(人) ※参考
おさかこども園(宮田含む)	31	61
きたこども園	41	80
みなみこども園	79	202
みなみこども園(馬瀬)	11	—
わかばこども園	61	122
たけはらこども園	53	125
かなやまこども園(小学生も含む)	46	98
計	322	688

### ◆アンケートの結果(希望する公園)

こども園名	第一希望	第二希望	第三希望
おさかこども園(宮田含む)	大島きこり公園	ふれあいの森他	
きたこども園	飛騨川公園	山之口清流広場	下り川公園
みなみこども園	飛騨川公園	桜谷公園	薬師平公園
みなみこども園(馬瀬)	清流ふれあい会館	わかあゆ保育ST	水辺の館
わかばこども園	雨情公園	縄文公園	しらすぎ緑地
たけはらこども園	白草公園	ちびっこ広場	乗政グラウンド
かなやまこども園(小学生も含む)	ふれあいパーク	旧下原小	田島公民館・旧菅田小

※アンケートで使用した公園名称のまま記載

### ◆アンケートの結果(飛騨川公園に希望するもの)



飛騨川公園に関するアンケートは、公園の整備で希望するものを1人につき2つ選んでもらいました。最も多かったのが大型遊具の新設です。次に幼児用遊具の設置、日よけの整備の順となります。アンケート結果でも分かるように遊具への関心は非常に高いものがあります。

## 3-4 視察

遊具を実際に目で見て、触れていただくことで計画策定の参考としてもらうため県内の公園施設を視察しました。

日時：令和4年11月29日(火)

場所：ぎふローズ・ガーデン(可児市)、岐阜市畜産センター(岐阜市)

人数：金森委員、進藤委員、市職員2名 遊具メーカー3名

視察内容：実際に整備された大型遊具を視察し遊具の機能などを知る。

10年以上経過した大型遊具の状態を知る。

### <視察結果>

- ・実際に遊具を触ったり、業者からの説明を聞くことで遊具の機能などを知ることができた。
- ・写真ではなく実物を目で見ることで遊具への関心が高まった。
- ・使用される材料により劣化具合が違う。
- ・部品は、海外製品が多い。(メンテナンスが困難)など



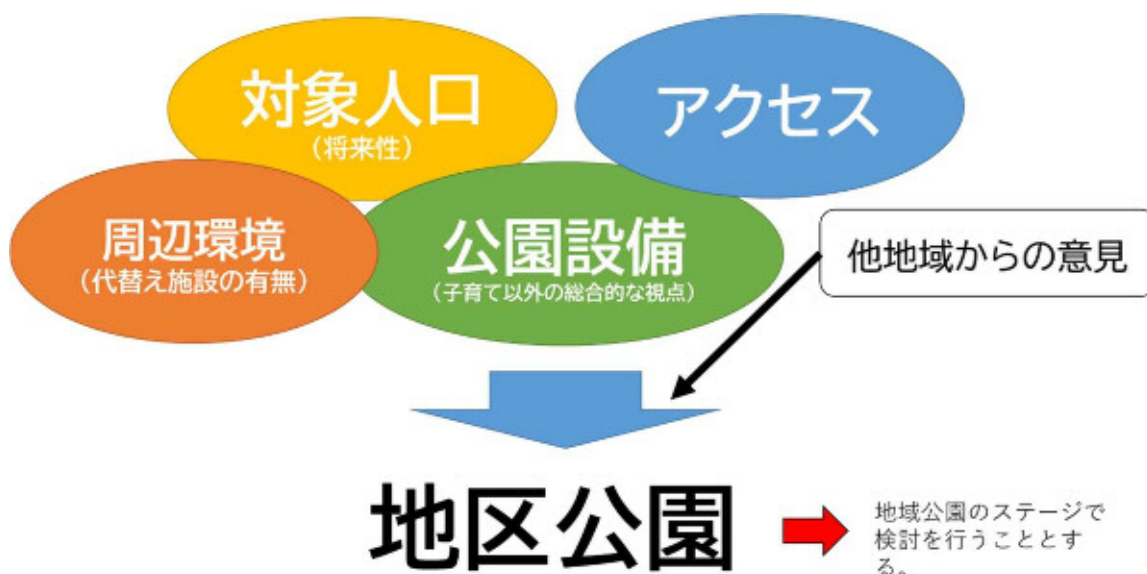
ぎふローズ・ガーデン(可児市)の遊具



岐阜市畜産センター(岐阜市)の遊具

## 3-5 拠点公園の設定

公園緑地整備検討協議会では、アンケート結果や視察等を参考に拠点公園の設定を行いました。尚、検討にあたっては、「3-2 公園整備の方針」を基本として対象人口、アクセス、周辺環境、公園の設備などを参考に他地域からの視点で意見をもらいました。



### <地区公園の検討>

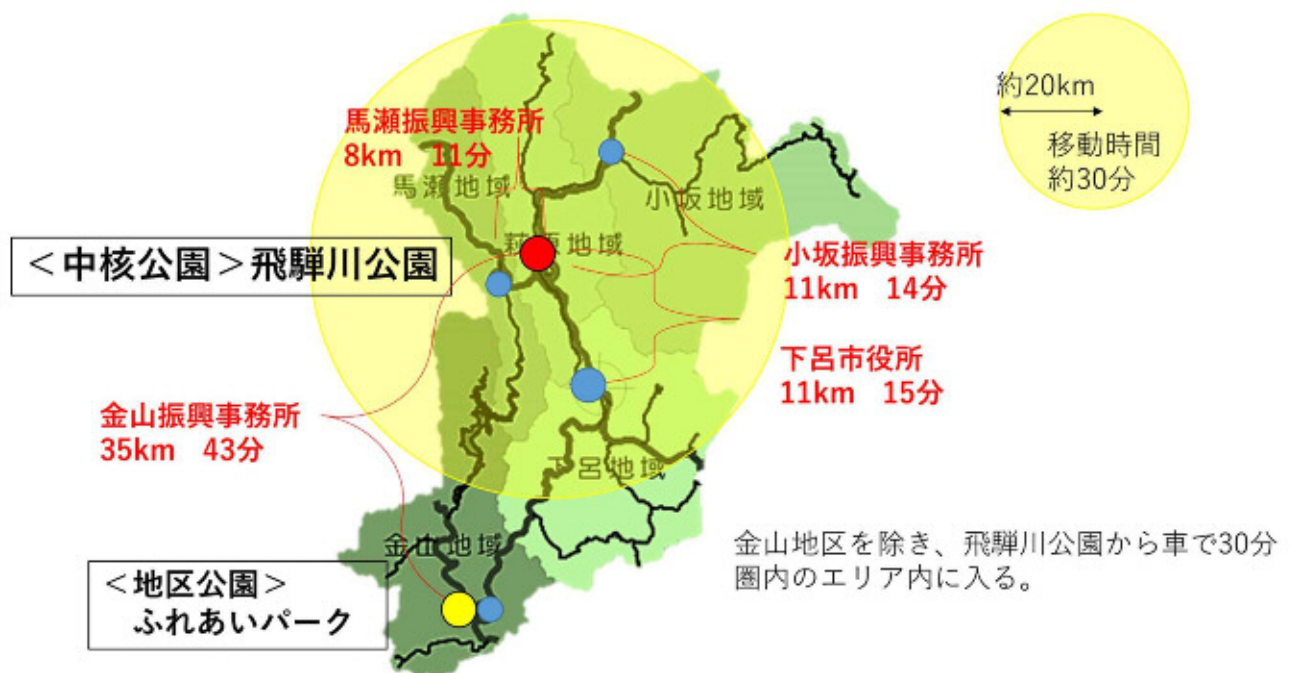
アンケート結果に対する検討内容や意見

こども園名	第一希望	検討内容や意見
おさかこども園(宮田含む)	大島きこり公園	アンケートのとおりとする。
きたこども園	飛騨川公園	アンケートのとおりとする。
みなみこども園	飛騨川公園	アンケートのとおりとする。
みなみこども園(馬瀬)	清流ふれあい会館	人口等を考慮した場合「わかあゆ保育ST」を充実した方が良い。
わかばこども園	雨情公園	雨情公園は、砂防公園であり立地は良いが駐車場等が少ない。下呂地区で1つと考えると竹原地域を考慮し第二希望の「縄文公園」とする
たけはらこども園	白草公園	白草公園は、地域公園に区分される。別ステージで調整する。「縄文公園とする。
かなやまこども園	ふれあいパーク	アンケートのとおりとする。

※アンケートで使用した公園名称のまま記載

### <中核公園の検討>

拠点公園(中核公園)については、対象人口、アクセス、周辺環境、公園の設備などを総合的に判断し「飛騨川公園」としました。下の図は、飛騨川公園を拠点とした場合、各庁舎、振興事務所までの距離と時間を検討した図です。金山地区を除くエリアからは概ね30分で移動できることがわかります。





## &lt;検討のまとめ&gt;

拠点公園	
中核公園	地区公園
利用区分が下呂市全体の中核公園	利用区分が旧町村(地区)単位の公園
飛騨川公園(萩原地区公園兼ねる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大島きこり公園(小坂地区)</li> <li>・縄文公園(下呂地区)</li> <li>・ふれあいパーク(金山地区)</li> <li>・わかあゆ保育ST(馬瀬地区)</li> </ul>

※アンケートで使用した公園名称のまま記載

ST=ステーション

## ◆ 中核公園 ◆

## 飛騨川公園 下呂市公園条例 下呂市萩原町上呂 2250 番地1

飛騨川公園は、萩原町上呂にある広さ 7 万平方メートルの大型河川敷公園です。サッカーグラウンドをはじめテニスコート、グラウンド・ゴルフコース、サイクリングコースが整備された下呂市を代表する公園です。花の名所としても知られ特に春は、桜をはじめ花の数が多くお勧めです。芝生広場には、滑り台などの遊具、ベンチはありますが子ども達が遊べる遊具が少なく整備が期待されています。



## ◆ 地区公園 ◆

## 大島農村公園(大島きこり公園) 下呂市農村公園条例 下呂市小坂町大島987番地7

小坂町にある大島きこりセンター横の公園です。芝生広場には、ステージ、<sup>あずまや</sup>四阿、ベンチがあり周辺が遊歩道で囲まれた形状の公園です。トンネル状に作られた藤棚は、地域の有志によるイルミネーションが行われたこともあります。公園には遊具は無く、小さなお子さんは、近くにある「おさかこども園」の遊具を使うこともできますが、小学生の子ども達の遊び場が無いことから小坂地区の地区公園として遊具の整備が期待されています。



## 下呂ふるさと歴史記念館(縄文公園) 下呂市下呂ふるさと歴史記念館条例

下呂市森 1808 番地 37

縄文公園は、下呂市ふるさと歴史記念館に隣接する公園です。この公園は、史跡公園として市民に親しまれています。公園内には、縄文時代、弥生時代の竪穴住居跡が復元されています。公園内には芝生の広場などもあります。過去にはアスレチックや遊具などもありましたが現在は、老朽化により殆どが撤去されています。縄文公園は、トイレや駐車場もあり、竹原からのアクセスも良い施設です。下呂地区の公園には遊具が無いいため遊び場の整備について期待されています。



## 金山リバーサイドスタジアム(ふれあいパーク) 元気ではつらつ増進施設条例

下呂市金山町金山911番地1(公園は、金山 1631 番地1)

ふれあいパークは、金山リバーサイドスタジアム周辺に整備された公園です。比較的アクセスも良く、道の駅「飛騨金山めく森の里温泉」のエリアに位置することから子どもたちの遊び場となっています。以前は、夏場の水遊び場としてミニプールなど多くの方が利用されていましたが、老朽化等により現在は使用できなくなっています。施設利用者からは、遊具整備だけでなく子どもの遊び場として全体的な整備が期待されています。



## 馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーション (わかあゆ保育ST)

下呂市子育て・保育ステーション条例 下呂市馬瀬名丸 1041 番地

わかあゆ子育て保育ステーションは、子育て支援と未満児保育などを行う馬瀬地区の子育て拠点施設です。保育園なので園庭は広く、たくさんの遊具が配置されています。園庭は、フェンスに囲まれているため小さなお子さんも安心して遊ぶことができますが、遊具などが老朽化しており、遊具の整備が期待されています。小さなお子さんを中心とした遊び場として検討をしています。



### 3-6 整備の時期(遊具のみ)

遊具整備の時期は下表(事業計画案)とします。拠点公園の検討で示したとおり飛騨川公園は、金山を除く地区の代替えとして取り扱うことが出来るため整備の順番は、金山、下呂、小坂、馬瀬の順とします。ただし次年度以降に開催される「第2段階 バランス期」と調整する必要がありますが、遊具整備については早期の実現を目指すため令和5年度から令和7年度までの3年間を計画期間とします。また、整備時期については状況に応じて臨機応変に対応することとします。

#### 【事業計画案】

内訳	R5	R6	R7
公園名 (エリア)	飛騨川公園 (萩原)	ふれあいパーク(金山) 縄文公園(下呂)	大島きこり公園(小坂) わかあゆ保育ST(馬瀬)
事業費	32,000	14,000	10,000
国県支出金	10,000		
一般財源	22,000	14,000	10,000

※財源はふるさと納税を原資とした基金を使用する。

## 第4章 遊具の選定

### 4-1 遊具の選定について

公園遊具の選定については、「一般社団法人日本公園施設業協会」に加盟する国内遊具メーカーとします。遊具の選定については、委員及び保護者の意見を参考として近隣市町村(県内)で整備実績があるメーカー3社以上から設定金額に合わせて提案または、カタログにて選定をします。尚、公園遊具への要望として小学生が使用できる遊具が無いというご意見を多くいただきました。そのため遊具は、アンケートの自由意見などを参考に6歳~12歳用の遊具を基本とします。ただし地区のニーズに合わせて幼児用遊具の設置についても可能とします。意見徴収を行った遊具についてはあくまでも参考として取り扱うものとし、整備する公園の各種制約、維持等を考慮した上で最終的に下呂市が決定します。

### 4-2 遊具の仕様について

下呂市第二次総合計画では、「誰もが安心して暮らせる社会をつくる」と明記しています。こうしたことから公園遊具については、単に整備するのではなく障がいの有無にかかわらず「誰もが遊べる」という視点を重要視します。「誰でも遊べる遊具」を整備することで子育て家庭を総合的に応援します。

### 誰もが遊べる遊具(インクルーシブな遊具)

インクルーシブは、包摂(ほうせつ)的という意味でSDGsの17目標の目標4,8,9,11,16でも使用されています。

簡単にいえば「みんな一緒」という意味です。これからの社会の形として近年、多くの場面で使用されるキーワードです。

下呂市では、誰もが簡単に安全で使い勝手が良く楽しめる遊具整備を実施するため次の5つの性質を整備する遊具に求めることとします。

1. 公平性 誰でも利用できる
2. 簡便性 使用方法が簡単で分かりやすい
3. 安全性 事故などの心配が無い
4. 機能性 使う上で楽に使えるたり様々な機能的要素が高い
5. 快適性 使いやすさと空間の確保

## 第5章 計画の引き継ぎ

### 5-1 計画内容の引き継ぎについて

第1ステージ 遊具整備編で策定された計画は、第2ステージに引き継ぎます。引き継がれる内容は、3-2公園整備の方針と3-6整備の時期(遊具のみ)です。

## 令和4年度 公園緑地整備検討協議会委員 (第1ステージ 子育て期)

	区分	所属・役職等	検討委員氏名
1	(1)子育て支援 団体の推薦のあ ったもの	NPO 法人サン・はぎわら	古川 美郷
2		NPO 法人ふるさと金山	金森 亜紀
3		NPO 法人みらいろ	熊崎うらら
4	(3)保育施設保 護者関係者 (圏域別保護 者代表者会議)	保護者代表者会議代表(小坂・宮田地区)	岩佐 望
5		保護者代表者会議代表(北部:きたこども園)	中丸 智保子
6		保護者代表者会議代表(南部:みなみこども園)	大森 千夏
7		保護者代表者会議代表(下呂・中原:わかばこども園)	長尾 飛鳥
8		保護者代表者会議代表(竹原・上原:たけはらこども園)	野中 信仁
9		保護者代表者会議代表(金山:かなやまこども園)	進藤 みく
10	(4)小学校保護 者関係者	下呂市 PTA 連合会副会長:小学校代表(尾崎小)	青木 純